

風土計

2020・8・28

全国各地から東日本大震災被災地に通い続けていた支援者と会えなくなつて久しい。新型コロナウイルス感染拡大の影響だ。その一人、横浜市の

岩室紳也医師とオンラインで「再会」した

▼岩室さんは震災後、地域の健康づくりのプロとして陸前高田市を支援。専門は泌尿器科で、「コンドームの達人」として各地

の学校現場を巡り、性教育に携わってきた

▼コロナ後は新宿歌舞伎町に通つていると

いう。飲み歩いているわけではない。東京で感染者が急増する中、その元凶として悪

者扱いされ、苦境に立たされた「夜の街」を巡り、感染予防策を助言してくれる。

▼写真を交え、その様子を話してくれた。さすが歌舞伎町、内装は超ゴージャス。そ

こで岩室さんは、従業員のさまざまな質問に答え、客を接待する際に座る位置、料理

の出し方などを丁寧にアドバイスしていく

▼「どこであれ感染リスクをゼロにはできない」と岩室さん。「『夜の街は危険』と

ひとくくりにして敬遠するのではなく、店ごとに専門家と語り合い、納得して予防策

を講じ、リスクを下げる取り組みが重要

▼被災地の健康増進へ、住民との対話を大切にしてきた岩室さん。その姿勢は「夜の街」通りに通じる。感染リスクが高いとされる業種などを排斥せず、共に解決策を模索する。コロナとの共存もうありたい。